第 43 回日本東方医学会

抄　録　集

後援　　厚生労働省
　　日本医師会

会頭　　友岡　清秀

メインテーマ

「順天応人　ー東方医学×公衆衛生学ー」

2025 年 11 月 29 日(土)・30 日(日)

目　　次

プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

演題抄録

会頭講演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

教育講演①・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

教育講演②・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

日本東方医学会／本草薬膳学院／日本国際薬膳師会
合同企画（講演者プロフィール）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

市民公開講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

シンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

ランチョンセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

スポンサードセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

一般口演・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

一般口演（ポスター発表）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

学生セッション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

会場案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

第43回日本東方医学会　学術大会(2025.11.29-30)　　『順天応人―東方医学×公衆衛生学―』

一日目／11月29日（土）

時　間			座長	演者	所属・肩書	演題
13:00～	**開会の辞**	5		友岡　清秀	順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座 准教授	
13:10～	鍼灸1	12	竹下　有 増田 卓也	**山元大樹**	鍼灸院ひなた	夜間尿失禁に対する鍼灸治療と家庭内QOLの改善を認めた一症例
13:22～	2	12		**東　豪**	鍼灸専門　一齊堂	緑内障に対する眼窩刺を用いた鍼灸治療の症例報告：視機能改善・眼圧下降を認めた一例
13:34～	3	12		**島田りか**	鍼灸マッサージ治療サロンR	高度生殖補助医療と鍼灸を併用し50歳代で出産に至った一症例
13:46～	湯液4	12		**森本理芽子**	練馬光が丘病院　整形外科	変形性膝関節症に対し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯と五苓散の併用が有効であった2例
13:58～	5	12		**安藤奈々子**	伊勢原協同病院　産婦人科	便秘型過敏性腸症候群と診断されていた40年来の慢性便秘症に対し、理気薬を中心に加療した症例
14:10～	6	12		**山縣 文**	東邦大学医療センター大森病院東洋医学科	入眠障害・中途覚醒に対して女神散の追加処方が有効であった症例
14:22～	調査7	12	形井 秀一 関　隆志	**吉村 英**	吉村はりきゅう治療院	DAPAカンファレンス症例から見る医鍼連携における課題の明確化～鍼灸師の視点から～
14:34～	8	12		**濵口 哲**	順天堂大学医学部	「気ってなんですか」～医学生が考える患者さんへの説明の模索～
14:46～	9	12		**岩﨑真実**	順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座	氣圧トライアルが血圧と自律神経系機能に及ぼす影響－健康成人を対象とした探索的研究
14:58～	10	12		**尾﨑和成**	市立伊丹病院 老年内科	伊達政宗の16人の医師へあてた直筆書状71通からわかること
15:10～15:20	**休憩**	10				
15:20～16:10	**学生セッション**	50	―			
16:10～16:30	**休憩**	20				
16:30～17:20	**市民公開講座**	50	谷川　武	**藤平 信一**	一般社団法人 心身統一合氣道会 会長	氣と健康

二日目／11月30日（日）　　＜ポスター発表：1階ホワイエにて終日掲示＞

時　間			座長	演者	所属・肩書	演題
10:00～10:30	**会頭講演**	30	長瀬 眞彦	**友岡 清秀**	順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座 客員准教授	「順天応人　―東方医学×公衆衛生学―」
10:30～11:15	**教育講演①**	45	北西　剛 友岡 清秀	**稲葉 俊郎**	慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授	「治す場」から「治る場」へ　病気学から健康学へ
11:15～11:25	**休憩**	10				
11:25～12:10	**教育講演②**	45	寺澤 佳洋 友岡 清秀	**小林　只**	弘前大学医学研究科総合地域医療推進学講座 講師 一般社団法人日本整形内科学研究会 副会長（学術局長） 株式会社アカデミア研究開発支援　代表取締役社長	東西文明の交錯と融合～ファシアと医学・科学のパラダイムシフト～
12:10～12:30	**ランチョンセミナー**	20	上馬塲 和夫	**鈴木 陽子**	東京農工大学大学院 博士課程在籍／L.C.I.C.I.JAPAN 代表	アーユルヴェーダに学ぶサフランの智慧とカンサワンドの活用法 ～癒しと美のための伝統と現代の融合～
12:30～13:30	**休憩**	60	**＜13:00～　ポスターセッション（質疑応答）／1階ホワイエ　ポスター前＞**			
13:30～13:50	**スポンサードセミナー**	20	田中 耕一郎	**鎌田 貴俊**	オーガニックサイエンス株式会社　代表取締役	現代人のお悩みに効くミネラル
13:50～14:00	**休憩**	10				
14:00～14:45	**＜プログラム変更＞ 合同企画**	45	李　玉棟	**辰巳　洋**	本草薬膳学院　学院長	【日本東方医学会・本草薬膳学院・日本国際薬膳師会合同企画】 順天應人―医在食中 ～古典に秘められた中医薬膳学～（予定）
14:45～15:00	**休憩**	15				
15:00～	シンポジウム①	25	小野 直哉 友岡 清秀	**小野 直哉**	公益財団法人 未来工学研究所　特別研究員 明治国際医療大学 客員教授	順天応人な医療を訪ねて：キューバの医療政策の事例など
15:25～	シンポジウム②	25		**朝日山 一男**	朝日山治療室　室長 東海医療学園専門学校／神奈川衛生学園専門学校／湘南慶育病院 非常勤講師	防災を念頭に置いた地域における鍼灸師の活動
15:50～	シンポジウム③	25		**伊藤 和憲**	明治国際医療大学　鍼灸学部長・教授	東洋医学的健康観「養生」で社会を活性化する
16:15～17:00	討論	45		討　論	―	順天応人の実践
17:00～17:25	特別スピーチ	25	―	ヒマラヤ大聖者　**ヨグマタ 相川圭子**		
17:25～17:35	**閉会式**	10	―			

会頭講演

「順天応人　－東方医学×公衆衛生学－」

順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座　客員准教授　**友 岡　清 秀**

第 43 回日本東方医学会では、私自身のバックグラウンドである東方医学と公衆衛生学の融合を目指し、「順天応人　－東方医学×公衆衛生学－」をテーマとさせていただきました。

「東方医学と公衆衛生学はどのような関係があるのだろうか？」と考える方は少なくはないと思いますが、これらにはとても親和性があります。公衆衛生学とは、社会全体の組織的な努力により、人々の健康を維持・増進し、疾病を予防することを目的とし、病をもつ人だけではなく、それを取り巻く社会環境に働きかける学問分野です。そして、この様な公衆衛生学の考え方は、東方医学の中にも見ることができます。例えば、漢方や鍼灸では、養生（≒健康増進）や治未病（≒疾病予防）は最も重要な概念であり、そして「上医医国、中医医人、下医医病」という言葉が示すように、良い医師とは病気や患者個人のみならず、国という社会全体を医するものであると考えられています。さらに、東方医学では「天人合一思想」のように、自然界（大宇宙）と人体（小宇宙）は一体で相互に密接な関係を持つと考えられ、人体の生理現象を自然の原理と結びつけ、自然に即した生き方を重視します。近年、公衆衛生学分野でも、Planetary Health という概念のように、人間の健康と地球環境の調和の重要性が見直されつつあります。

本大会では、東方医学と公衆衛生学を結びつける言葉として、「順天応人（天に順い、人に応じる）」をメインテーマとしました。これは易経に由来する言葉で、澤火革の彖伝（たんでん）において「天地革（あらた）まって四時成り、湯武命を革めて、天に順(したが)い人に応ず。革(かく)の時大いなるかな。」と述べられています。革命には大義名分が必要であり、天の意思（自然の摂理）に順い、人々の願いに応えるような革命は偉大なものであるということを意味しています。

順天応人という言葉をキーワードにして、より豊かで、より健やかな社会の実現のために、東方医学をどのようにして現在、そして未来の社会に実装するか、皆さんと共に考えたいと思います。

教育講演①

「『治す場』から『治る場』へ　病気学から健康学へ」

慶応義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授　　**稲 葉　俊 郎**

西洋医学は病気学を中心とした学問であり、医療従事者は病気のことに詳しくても、「医者の不養生」と言われるように「健康」のことは疎いものです。病気学を扱う西洋医学に対して、健康学を担っているのは伝統医学の領域であり、その他に文化や芸術もわたしたちの健康を担っています。病気を扱う場だけではなく、訪れる方が健康や幸福になれる場を創造していく必要があります。個人と場（集団や組織）はそれぞれの利害が衝突するため、両立させることはもともと困難です。ただ、人間は個と場とを両立させることができる稀有な生き物です。そうした個と場をつなぐのは「対話の力」です。創造的な対話に重要な前提は「安全な場」であり、誰もが対等に出会えることです。わたしたちは場の力に無意識に影響されているため、場の力を活用することは、人間の自然治癒力にも影響します。コロナ禍で場が解体される中で、逆説的に「場の力」を感じたのが現代だと思います。

特に、わたしは芸術と医療とが補い合える場を模索してきました。山形ビエンナーレという芸術祭では芸術監督を拝命し、医療と芸術の接点をあらゆる方向から模索しました。山形ビエンナーレ 2024 では蔵王温泉という 1900 年の歴史ある湯治場の力を借りながら、温泉、芸術、医療が混じり合う場を創造しました。「病気学」の視点で「治す」ことだけに注力せず、「健康学」の視点で「治る」場を考えることが必要です。これからは「治す場」から「治る場」へ、そして病気学から健康学へという場のシフトが起きて行くことを考えています。湯が湧き出る温泉地や湧水地は古来から信仰の対象であり、そうした新しい場づくりの挑戦もご紹介します。

教育講演②

「東西文明の交錯と融合～ファシアと医学・科学のパラダイムシフト～」

弘前大学医学研究科総合地域医療推進学講座 講師
一般社団法人日本整形内科学研究会 副会長（学術局長）
株式会社アカデミア研究開発支援　代表取締役社長　　小 林　只

現代医学は、西洋医学的な部分観・構造学と東洋医学的な全体観・機能学という二元論的アプローチが並立してきた。約 800 年周期で生じる東西文明の交錯お時代とされる現在において、約 4000 年の東西科学の交錯を例示しつつ、これからの医学の在り様とを提案する。

本講演ではまず、科学史における認識論的転換の事例（数学史におけるゼロの概念の受容、文化による虹の色の認識差など）を援用し、新たな科学的知見が既存のパラダイムを乗り越え受容される過程には、「認識→証明→枠組み→受容」という段階と、それを促進する明確な「概念」提示の重要性を示す。医学分野における Fascia（立体網目状の線維性組織）の再発見と ICD-11 への収載は、まさにこのようなパラダイムシフトの一例と言える。

さらに、AI、IoT、個別化診断・治療機器といったテクノロジーの進展が医療にもたらす変革にも言及する。これにより、従来の集約型医療から分散化・個別化医療への移行が加速し、エビデンスのあり方も大規模研究中心から AI が支援する個別症例報告重視へと変化する可能性、そして「安全・安心・簡単・軽量・安価」な医療への志向が強まる未来を展望する。

医学的事例として、Fascia を中心とした具体的な医学的アプローチを提示する。自律神経疾患などを例に、Fascia への介入（ハイドロリリース、鍼治療、徒手療法)、栄養療法、呼吸法、エコーを用いた評価などを統合的に捉える視点を示す。特に、組織を「緩める」治療と「固める」治療の戦略的使い分けや、Dry needling による Fascia 内受容器への刺激、さらには呼吸法や声の響きを利用した Mechanotransduction を介したファシアへの振動刺激といった、東洋的知恵と現代科学を結びつける治療法の可能性を探る。

既存の常識に挑戦し、新しい概念や枠組みを創造する柔軟な思考と学際的なアプローチが、対立構造ではない、多職種連携と医療・ヘルスケア分野における変革への一助となることを期待する。

合同企画　講演者プロフィール

辰巳 洋（Tatsumi Nami）
1975 年～ 北京中医薬大学 卒業 総合病院 医師
中国中医研究院（現在中国中医科学院）
中西医結合雑誌 編集者 主治医師

1989 年 総合病院にて漢方相談・学校法人目白健康専門学校中医学講師
2001 年 創立 本草薬膳学院 学院長
2002 年 東洋学術出版社 編集協力
2004 年 創立 一般社団法人日本国際薬膳師会 会長
2005 年 世界中医薬学会連合会（本部北京）執行委員
2012 年 順天堂大学 医学博士を取得
2014 年 順天堂大学・国際教養学部 非常勤講師(2022 年 4 月退任)
2023 年 世界伝統医薬論壇（本部オランダ）常務理事
2025 年 中華中医薬学会国際健康智庫専家
2025 年 世界華人週刊・国際中医養生大会理事会・新媒体国際合作組織の選考により
「海外国際大師」に選出されました

著書と辞典
教科書
１.実用中医薬膳学 東洋学術出版社 2008
２.実用中医学 源草社 2009
３.薬膳の基本 緑書房 2008
４.一語でわかる中医用語辞典（主編） 源草社 2009
５.東洋医学の教科書（薬膳監修） なつめ社 2014
６. 実用体質薬膳学 東洋学術出版社 2016
７.中医学教科書シリーズ 1 中医臨床基礎学（主編） 源草社 2018
８.中医学教科書シリーズ 2 中医婦人科学（主編） 源草社 2018
９. 中医学教科書シリーズ 3 中医小児科学（主編） 源草社 2018
10. 中医学教科書シリーズ 4 中医外科学（主編） 源草社 2020
11. 中医学教科書シリーズ 4 方剤学（主編） 源草社 2021
12. 中医学教科書シリーズ 4 中医内科学（主編） 源草社 2022

専門書
1.薬膳は健康を守る 健友館 2001
2.用果蔬去除您肝臓的脂肪（共著） 人民軍医出版社（中国） 2005
3.薬膳茶（共著） 文芸社 2006

4.冬季進補与養生康復（共著） 人民軍医出版社（中国） 2006
5.薬膳素材辞典（主編） 源草社 2006
６.こども薬膳 緑書房 2010
７.東洋医学のすべてを分かる（監修） なつめ社 2011
８.防がん抗がんの薬膳 源草社 2012
９.薬膳お菓子（共著） 緑書房 2012
10.日常調理 膳食与功能茶飲（薬膳の基本の中国語版）人民東方出版傳媒東方出版社 2014
11.１～６歳 功能性膳食調理（こども薬膳の中国語版）人民東方出版傳媒東方出版社 2014
12. 家庭で楽しむ薬膳レシピ（監修） 緑書房 2014
13. 体質改善のための薬膳（監修） 緑書房 2015
14.新読むサプリ 24 主題のシリーズ 24 冊（単行本・監修）株式会社ウィズネット 2015
15.早わかり薬膳素材（主編） 源草社 2017
16.薬膳茶のすべて 緑書房 2017
17.女性のための薬膳レシピ 緑書房 2017
18.季節の薬膳 二十四節気の養生レシピ（監修） 緑書房 2018
19.医在厨房 東洋学術出版社 2022
20.日々の薬膳（共著） 源草社 2024

市民公開講座

「氣と健康」

一般社団法人　心身統一合氣道会 会長　　藤 平　信 一

私は「心身統一合氣道」という武道の継承者として、国内外で指導と普及を行っています。心身統一合氣道の稽古の目的は「人間が本来持っている力を発揮する」ことです。そのため、合気道に関心がある方だけではなく、スポーツ・芸術・ビジネス・学術など様々な分野で活躍する皆さんが学んでいます。2025 年現在、世界 30 カ国で約 3 万人が言語・文化・宗教の違いを超えて学んでいます。年齢や性別に関係なく、障碍を持つ方も一緒に活動しています。

本講演では、「氣と健康」をテーマに、心と体の健康を保つ上で最も重要な「姿勢」と「呼吸」について、実際にご体験いただきながら具体的にお伝えいたします。

自然な姿勢には自然な安定があります。体に余分な力が入ることで、元々、人間が持っているバランスを失います。不安定な姿勢では力を発揮できず、首・肩・背中・腰・膝などに負担が生じて怪我や故障の原因となります。また、姿勢が安定しないと疲れやすくなり、集中力を持続できなくなります。簡単な方法によって自然な姿勢を確認できます。

過度な緊張やストレスが心身に与える影響は大きく、あらゆる不調の元となります。そういう状態では意識は頭や上体にあり、いわゆる「上ずった状態」になっています。心が安らかであるためには上ずった意識を下げることが重要です。その具体的な方法が「呼吸を静める」ことで、誰もがすぐに実践できます。

人間は天地自然の一部の存在であり、天地自然との繋がりを感じられる状態が本来です。しかし、強すぎる個人主義、社会での心の分断、触れ合いの欠如など、天地自然との繋がりを感じられなくなることで孤立し、不安が生じます。SNS が普及し、知識や情報だけの繋がりとなったことで、さらに孤独感を高めています。「姿勢」と「呼吸」を通じて、天地自然との繋がりを感じることが本講演のテーマです。

シンポジウム

①　順天応人な医療を訪ねて：キューバの医療政策の事例など

（公財）未来工学研究所 特別研究員
明治国際医療大学 客員教授　　小 野　直 哉

「易経」に由来する「順天応人」には、「天の意志に従い」（自然の法則や道理を理解し、それに逆らわず、自然の摂理や宇宙の法則に従い生きること）、「人の願いに応える」（人々の幸福や健康を願い、それに応えるために努力すること）との意味合いがある。

医療における「順天応人」は、患者の病状や体質を理解し、適切な治療で自然治癒力を引き出し、病の治療だけでなく、心にも寄り添う、全人的医療の姿勢を表している。

キューバは、1990 年代のソ連崩壊に伴う社会主義経済圏の消失と米国の経済封鎖の強化によるエネルギーと物資の不足から、「持続可能な社会」の構築を余儀なくされ、「持続可能な医療」の摸索が強いられた。その過程において医療政策の主軸を疾病予防と健康増進へ転換し、患者中心の包括的なケアの提供を目指した、プライマリ・ケアを基盤とする医療制度が構築され、今日、世界で最も整備されたプライマリ・ケア先進国として、国連や WHO から高い評価を得ている。しかし、キューバの医療政策や医療制度が従来の近代医療を中心とした一元的医療に自然伝統医療（伝統医療や補完医療）を導入し、ハイブリッド化された統合的医療体系（統合医療）により支えられていることは、日本では殆ど知られていない。また、日本とキューバでは、社会の高齢化と頻発する自然災害への対応が共通課題となっている。

キューバの医療政策には、患者を全人的に捉え、身体的・精神的・社会的側面を考慮した適切な治療を選択し、疾病予防や健康増進プログラムを提供し、地域住民の健康を支えるなど、「順天応人」に通じるものがある。本講演では、図らずしも「持続可能な社会」における「持続可能な医療」として世界で最も統合医療化されたキューバの医療政策や医療制度が、社会の高齢化における日常（平時）と災害（有事）の何れの医療サービスにおいても威力を発揮し、キューバ国民の健康維持に利活用されている現状を紹介する。

シンポジウム

②　防災を念頭に置いた地域における鍼灸師の活動

朝日山治療室 室長
神奈川衛生学園専門学校／東海医療学園専門学校／
湘南慶育病院　　非常勤講師　　**朝 日 山　一 男**

新潟中越地震以来、能登半島地震まで災害支援活動（鍼灸マッサージ・サロン活動）を７０回以上行ってきた。急性期から亜急性期、慢性期を通じて、避難所・仮設住宅・復興住宅のそれぞれのフェイズにおける災害支援から共通の問題点が存在した。それは①生活不活発病②引籠り③コミュニティー形成の難しさである。これは現代社会の課題でもあるが、被災地においては顕著に表れる。問題解決には、平時よりの「顔に見える関係づくり」が重要であると気づき、地元二宮町にて「人生わくわく船」を組織し、月１回東洋医学に基づいた健康講和、運動、ゲームなどのサロン活動を実施している。

他の活動内容は、年１回二宮町ボッチャ大会を開催、本年で第５回目を迎えた。

２０２２年、災害研修（パネルディスカッション）を実施。

２０２３年、二宮町防災訓練時にボランティアマッチング訓練を指導した。二宮町防災課の研修にも講師として参加している。各行事とも１５０人程度の参加を得ており、全て行政や社協との連携で実施している。

２０２４年、能登半島地震では DMAT 本部での活動を経て、仮設住宅ニーズ調査から、支援第一弾「真心靴下大作戦」を展開、靴下を送ることを決定した。人生わくわく船メンバーや患者様、タウンニュース、神奈川新聞等で呼び掛け、４６４７足が集まり、仮設住宅、保育園等２２か所に送付させて頂いた。

第二弾は能登災害支援チャリティーコンサート（マンドリン）を実施した。３３０名の参加者があった。

２０２５年７月、第三弾能登支援コンサートを金沢市近江町交流プラザで実施。併せて輪島市二俣町仮設住宅へのサロン活動の支援を実施。これらの活動は、地域住民の方々の健康維持増進を基に平時から顔の見える関係づくりを目指すものであり、鍼灸マッサージ師は地域の様々なコーディネート役としての役割が可能であると考える。

シンポジウム

③　東洋医学的健康観「養生」で社会を活性化する

明治国際医療大学　鍼灸学部長・教授　　伊 藤　和 憲

「養生」とは季節に応じた生活を指し、地域の伝統習慣や食習慣を大切にした生き方の総称である。近年、養生という言葉を聞く機会が増えたが、その多くは症状軽減や予後回復、さらには病気予防を目的に行うことが多く、セルフケアやセルフマネージメントの１つと捉えられている。しかし、昔は病気になれば長く生きることができなかったことから、養生は病気の治療・回復のためというよりは、より充実した生活を送るための方法として発展してきており、その結果として病気の予防につながったものと考える方が自然である。その意味で、本来の養生を進めていくためには、自分らしく充実した生活を送るために必要な環境を提供する中で、最終的に健康維持につながることが望ましい。そう考えると養生は今の「well-being」に近い概念なのであろう。そのため、日常生活の全てが養生であり、地域に関わるすべてに養生という概念を学んでもらうことで、地域の健康文化として地域活性につなげていかなくてはならない。

そのため、現在は日本養生普及協会・明治国際医療大学を基軸に、京都府南丹エリアを中心に現在、養生を基盤とした街づくりを社会実験しており、地域健康だけなく、地域のつながりや地域経済が強化される街づくりを行政と進めている。また、その他でも養生に関する計画・取り組みが全国各地で進んでおり、養生に関する考えは京都から全国に広がりつつある。さらに、養生の普及においては健康を支える企業や業界との連携が必要不可欠であるが、健康予防、さらには well-being としての養生ブランドも確立されており、少しずつ社会に広がりを見せている。

このように、養生の概念は病気の予防・治療から well-being の手段に変化していると共に、地域の共通言語や、地域経済の活性の手段として、社会に浸透しつつある。

ランチョンセミナー

「アーユルヴェーダに学ぶサフランの智慧とカンサワンドの活用法
～癒しと美のための伝統と現代の融合～」

東京農工大学大学院 博士課程在籍
L.C.I.C.I.JAPAN 代表　　鈴 木　陽 子

アヤメ科の植物サフラン（Crocus sativus L.、クンクマ）は、3,000 年以上にわたり染料、香料、薬草として重用されてきた。用途は食用・化粧品・伝統医療など多岐にわたり、アーユルヴェーダにおいては皮膚疾患、喘息、関節炎、消化器系疾患等に対する治療に伝統的に用いられてきた。クンクマはトリドーシャ（ヴァータ・ピッタ・カパ）を整える薬草とされ、肌の浄化や心身の調和を目的としたオイルトリートメントにも活用されている。

本講演では、このサフランと、青銅（銅＋錫）製のケアツール「Kansa Wand®（カンサワンド）」に関しての現代的応用について紹介する。アーユルヴェーダの実践では古くから kansa（青銅）を用いた足裏ケア器具 Kansa Vatki®が用いられてきた。Kansa Wand はその素材とケア哲学を応用し、現代のセルフケアや美容分野に向けて開発されたツールである。これら青銅を用いたツールで行うマルマ（つぼ）刺激とオイルトリートメントにより、リンパ循環促進、pH バランス調整、トリドーシャ調整に寄与すると伝えられてきた。

サフランを配合したオイルやセラムと Kansa Wand を組み合わせたトリートメントは、海外の高級スパやアーユルヴェーダ施設でも採用されている。

日本では、Kansa Wand の認定セラピスト育成に加え、歯科クリニックや高齢者ケア、和の空間を活かした応用例も展開されており、日本的な癒しの感性とも親和性が高いことが確認されている。

本講演では、アーユルヴェーダの智慧と現代応用を通じて、自然療法の新たな可能性を探る。

スポンサードセミナー

「現代人のお悩みに効くミネラル ― マグネシウムが支える Well-being ―」

オーガニックサイエンス株式会社　代表取締役　　鎌 田　貴 俊

生命の起源を遡ると、マグネシウムは原始海洋において核酸や ATP など生命分子の安定化に関与し、生命誕生の基盤を支えた元素である。現代においても、マグネシウムは 800 以上の酵素反応に関与し、エネルギー産生、筋肉の収縮・弛緩、睡眠、ホルモン分泌、神経伝達、抗炎症反応など、多岐にわたる生理機能を調整する不可欠なミネラルである。

漢方の視点では、「水」「気」「血」の調和に関わり、特に緊張緩和や気滞の改善など、体内の流れを整える作用と通じる点が多い。中国では、マグネシウムを表す漢字「鎂」からもわかるように、古来より「美しく健やかな生命を保つミネラル」として位置づけられていた。伝統的治療者の間では、予防医療と治療の両面でその重要性が明確に認識されていたことが記録に残る。

一方で現代日本人のマグネシウム摂取量は雑穀や天然塩の消費量が減った 1970 年代以降大幅に減少傾向にあり、加工食品の増加やストレスなどの影響で潜在的欠乏状態にあるとされる。欠乏は倦怠感、不安、不眠、筋緊張、ホルモンバランスの乱れなど、心身両面の不調に結びつくことが報告されている。

補給法としては、食品（海藻・豆類・ナッツ類など）の摂取に加え、吸収率を補完する形でサプリメントや経皮吸収（マグネシウムオイル、バスソルトなど）も注目されている。欧米では「ストレス耐性ミネラル」として Well-being に果たす役割が広く認識され、臨床応用も進んでいる。

本講演では、マグネシウムの科学的意義と東洋医学的象徴を融合し、現代人の健康課題に対する実践的アプローチを提示するとともに、オーガニックサイエンス社の「マグネシウムの重要性を社会に根付かせる」ビジョンを共有したい。

一般口演

1.　夜間尿失禁に対する鍼灸治療と家庭内QOLの改善を認めた一症例

山元 大樹

鍼灸院ひなた

【目的（背景）】

夜間尿失禁（夜尿症）は高齢者のQOLを著しく低下させる症状であり、本人のみならず介護者の負担も大きい。西洋医学的な治療で改善が得られなかった症例に対して、鍼灸治療により症状改善と家庭環境の回復が得られたため報告する。

【症例】

X年11月、〇〇代男性が来院。X-2年頃より寝起き時の尿失禁が毎日続き、整形外科で腰椎ヘルニアの診断を受け手術も行ったが改善せず、薬物・漢方治療でも効果を得られなかった。介護を担う配偶者は毎朝のシーツ交換に強いストレスを感じ、夫婦仲にも影響していた。触診では下腹部の冷えと恥骨上部の硬さが顕著であった。

【結果（考察）】

治療は週2～3回、合計4回行い、陰谷、委陽、中髎に鍼を実施。初回で脚の冷えが改善、2回目で夜尿が消失し、3回目で安定化した。飲酒過多で一度再発があったが指導により再発防止を図った。症状の改善により夫婦関係も良好となり、家庭内の雰囲気も穏やかに変化した。鍼灸が身体症状のみならず人間関係・QOL全体に良い影響を及ぼす可能性があると考えられる。

【結語（結論）】

夜間尿失禁に対する鍼灸治療は、下腹部の冷えや骨盤部の硬さを整えることで症状改善が得られただけでなく、家庭内の関係性の回復にも寄与した。QOLの向上が人の豊かさに直結することを再確認する症例となった。

キーワード：夜間尿失禁、鍼灸、下腹部の冷え、家庭内QOL、骨盤部の硬さ

一般口演

2.　緑内障に対する眼窩刺を用いた鍼灸治療の症例報告
：視機能改善・眼圧下降を認めた一例

東　豪・武市 春栄

鍼灸専門 一齊堂

【背景】

緑内障は主要な失明原因である。本症例は、虹虹彩角膜内皮症候群（Iridocorneal Endothelial Syndrome, ICE）に伴う続発性緑内障に対し、眼窩刺を安全かつ効果的に施行して視機能の維持および眼圧の安定化を認めた一例を報告する。

【症例】

40 代男性。X-9 年、緑内障と診断され点眼治療を開始。当初より右眼圧高値で左右視野狭窄を認めた。 X-5 年 12 月、眼圧 60mmHg を記録しICE 症候群に伴う続発性緑内障と診断され、同年 12 月～X-4 年 3 月に複数回の手術を施行。 術後も点眼継続下で眼圧は徐々に上昇し再手術を示唆された。 X 年 12 月頃より視野狭窄の進行を自覚し鍼灸治療を併用した。鍼灸治療開始後、自覚的に視界が良好。 週 2 回の治療時には、より検査数値に反映があった。 現在、右眼矯正視力は 1.2 から 0.6 に低下したが、左眼は 1.2 を維持。眼圧は右眼が 21mmHg から21～23mmHg と手術に至らない数値、左眼は 12～14mmHg で安定している。視野検査では、右眼の視神経乳頭陥凹拡大は進行するが、左眼は老化の範囲に留まる。

【考察】

稀な難治性緑内障に対する眼窩刺は、 刺入に際して解剖学的知識に基づき眼球や主要血管・神経への損傷を避けるよう細心の注意を払うことで、有効かつ安全に実施可能であることを示した。 また、自覚症状の改善に加え、複数回の手術後も不安定であった眼圧の安定化
（特に右眼の再手術回避） が認められた。 単一例ではあるが、難治性緑内障に対する鍼灸の有効性、特に、眼窩刺の可能性を示唆すると考えられる。

キーワード：緑内障、眼窩刺

一般口演

3.　高度生殖補助医療と鍼灸を併用し50歳代で出産に至った一症例

島田 りか[1)]・佐野 敬夫[2)]

1）北千束 鍼灸マッサージ治療サロンR　　2）朋佑会札幌産科婦人科

【目的】

近年、ARTを用いた不妊治療が、多くの不妊に悩む夫婦の助けとなっているが、先の見えない結果に不安を多く抱える患者様も多い。鍼灸の併用は肉体的・精神的ストレスの軽減につながる。今回の症例は、40歳代で、何年もの間、凍結胚移植を行い、不成功に終わった患者様が、凍結胚を残したまま、治療を休止、50歳代で治療を再開、出産に至った症例を発表する。

【症例】

X年2月、初診。年齢42歳　既往歴　胃潰瘍、腸閉塞、肺炎　X年－5ヶ月、ART病院を受診し、検査及び治療開始。その時点で子宮筋腫を指摘され、3か月後に子宮筋腫核摘出手術。鍼灸院初診前に、3回ISCIを行ったが、着床に至らなかった。ストレスの軽減や、妊娠しやすい身体作りを目的として当院を受診。2週間に一度、「肝脾不和」として鍼灸治療を始める。血液検査で甲状腺の値が高いことが指摘され、チラージンの服用開始。その後、ART病院を転院し、着床まで確認されるが、妊娠維持まで至らなかった。治療中に使用した薬剤により、薬剤性アレルギーが起き、その対処に不信感をもち、再転院。採卵と移殖を繰り返したが、挙児にはつながらなかった。貯卵をしたのち、治療を休止、フルタイムで働き始める。X＋10年3月、子宮内膜炎の検査を行い、陰性だったため、治療を再開。4月、貯卵してあった受精卵を使用して、移殖。その後、血液検査で妊娠判定は＋と出たが、5日後、成長が止まる。7月移殖、着床、心拍確認。妊娠中は、「水湿滞留」として、36週まで鍼灸治療を行う。X＋11年 3月、帝王切開で、出産。

X＋11年6月、育児疲れ改善を目的に鍼灸治療再開。

【結果】

不妊治療に合わせて鍼灸治療を併用した結果、挙児に至った。

【結語】

鍼灸治療が生殖治療の手助けとなる他、患者様の生活のストレスを傾聴しながら治療を行い、信頼関係を築き、長期にわたって体の状態を改善していったことが、50歳代になってからの移殖が挙児までつながったと考えられる。

キーワード：不妊治療 50歳代 出産 鍼灸治療 高度生殖補助医療

一般口演

4. 変形性膝関節症に対し、当帰四逆加呉茱萸生姜湯と五苓散の併用が有効であった2例

森本 理芽子[1)]・長瀬 眞彦[2) 3)]

1）練馬光が丘病院 整形外科　　2）吉祥寺中医クリニック
3）順天堂大学医学部 医学教育研究室

【緒言】
中高年の変形性膝関節症では、冷え症を認め、さらに低気圧や湿度の上昇で疼痛が増悪すると訴える者が少なくない。今回、当帰四逆加呉茱萸生姜湯と五苓散の併用で膝関節痛が改善した2症例を経験したので報告する。

【症例１】60代女性。　主訴：両膝関節痛。
経過：X年6月両変形性膝関節症の診断で、初診時よりヒアルロン酸関節腔内注射を開始し、隔週で継続していた。NRS: 4/10と症状は軽快していたが、X＋1年5月両足関節より遠位の冷えの訴えがあり、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を開始した。冷えの改善とともに両膝関節痛の軽減を認めていたが、NRS: 3/10と疼痛は若干残存していた。X＋2年4月天気の悪化時による疼痛の増悪の訴えがあり、五苓散を併用したところ、NRS: 1/10と著明な改善を認めた。

【症例２】70代女性。　主訴：両膝関節痛。
経過：X年3月両変形性膝関節症の診断で、初診時よりヒアルロン酸関節腔内注射を開始し、月1回で継続していた。経過中、両膝関節より遠位の冷えの訴えがあり、X＋5年9月当帰四逆加呉茱萸生姜湯を開始。冷えの改善とともに両膝関節痛が軽減していたが、NRS: 5/10と疼痛の残存を認めていた。X＋6年2月天気の悪化時による疼痛の増悪の訴えがあり、五苓散を併用したところ、NRS: 1/10と著明な改善を認めた。

【考察ならびに結語】
2症例とも、冷え症と同時に寒冷ならびに天気の悪化による症状の増悪を認め、さらに足が攣りやすく、寒湿庫、水毒ならびに血虚を認めた。中高年ではこの様にいくつかの証を併せ持つ者が少なくない。温裏剤である当帰四逆加呉茱萸生姜湯で寒邪の影響を受けた血虚、すなわち血虚寒凝証を改善し、また利水剤である五苓散を併用して水毒を改善することによって、膝関節痛の軽減が可能であった。

一般口演

5. 便秘型過敏性腸症候群と診断されていた 40年来の慢性便秘症に対し、理気薬を中心に加療した症例

安藤 奈々子[1)]・田中 耕一郎[2)]・奈良 和彦[2)]

1）伊勢原協同病院 産婦人科　　2）東邦大学医療センター大森病院 東洋医学科

【背景】

便秘型過敏性腸症候群に対し西洋医学的な加療が行われていたが著効せず、中医学的なアプローチを併用し症状が改善した症例を報告する。

【症例】

70代男性、既往に双極性障害があり、精神科で加療されている。X-2年11月に便秘で下剤が効かなくなったことを主訴に当院総合内科を初診となり、様々な薬物加療を行ったが著効なく、漢方薬での加療を希望されX年10月に当科初診となった。初診時の問診では、塩類下剤をベースに、3日に1回刺激性下剤を使って10回以上かけて便を無理に出している、便秘でおなかがはっていると気分も沈んでしまうと訴えていた。東洋医学的身体所見では、脈は両側弦滑で、舌は紅色、黄膩苔であった。弁証は肝鬱気滞、論治は理気導滞とした。30年ほど前に中医師により処方されたものがよく効いたことがあるので同じものを処方してほしいとの希望があり、香附子、陳皮、生姜、茯苓、木香、厚朴、烏薬、枳殻、甘草を煎じ薬にて処方した。第一診では、便通は変わりないが漢方薬を内服して体全体が楽になった、第二診では、便通がよくなったと症状の改善がみられた。

【考察】

過敏性腸症候群は、ストレスや不安など心理社会的要因が発症や症状の増悪に関与するとされている。中医学による便秘の分類では、肝の疏泄機能が失調するなどの原因によって気の運行が滞って生じた便秘を気秘という。今回の症例は肝鬱気滞が主病態の気秘と考えられた。瀉下薬は用いず理気薬を中心に処方し、便通の改善をえた。

【結語】

難治性の慢性便秘症に対し理気薬を中心とした処方で効果を得られた症例を経験した。便秘症患者に対しては、病態を踏まえ、瀉下作用を有する生薬を含まない処方を選択することが有効な治療選択肢となる場合もある。

キーワード：慢性便秘症、便秘型過敏性腸症候群

一般口演

6.　入眠障害・中途覚醒に対して女神散の追加処方が有効であった症例

山縣　文・奈良 和彦・田中 耕一郎

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科

【症例】
　主訴：倦怠感、不眠、体重増加
　現病歴：40代、女性。X-1年2月に甲状腺腫瘤に気づき、近医を受診。その後、当院における精査の結果、橋本病を基礎とした無痛性甲状腺腫と診断されレボチロキシンの内服を開始した。X-1年5月にはeuthyroidとなり経過観察中。その後、X-1年9月頃から眠れなくなり、入眠できても2,3時間で起きてしまうよう、倦怠感が強くて家事がままならない等の症状があり、X年3月当科受診。
　既往歴：甲状腺機能低下症、子宮腺筋症、自然流産2回（4妊2産）、鉄欠乏性貧血、不眠症
　常用薬：レボチロキシン、クエン酸第二鉄、ジエノゲスト、ゾルピデム、加味逍遙散
　・自覚症状：倦怠感、不眠、体重増加、手指のこわばり
　・脈診：沈・細
　・舌診：やや紅、厚白苔、舌下静脈怒張＋
　・腹診：胸脇苦満、胸肋角狭

　弁証：血虚、気滞瘀血
　治法：補血、理気調血
【経過】
　女神散を処方。2週後再診時には眠れるようになった。舌所見は紅、白苔、舌下静脈怒張なし。X年4月、入眠良好となり、中途覚醒もなくなった。
【考察】
　出産歴に加えて二度の流産歴があり、血虚･瘀血の関与が強く示唆された。不眠に関しては、気滞瘀血に加え、上焦の鬱熱もあると考えた。近医産婦人科からすでに加味逍遙散が処方されていたため、上記の方意を強化するために女神散を追加処方した。
　女神散の構成生薬のうち、香附子は肝の気滞に作用し、かつ活血作用により川芎、当帰などの作用を増強する。檳榔は理気作用が強く、上逆した気を下降することで気滞を治療する。
　本方は温薬と涼薬の双方を含み、桂枝は温性で経脈を通じさせ、黄連･オウゴンは清熱作用によって上部の鬱熱を冷ます。特に黄連は心に帰経し、心熱を冷ますことによりイライラ･のぼせなどの症状を改善する。さらに、人参･白朮･甘草により脾気を補い気血を生成することで、虚実の両側面に対応することができる。
【結語】
　今回、血虚･瘀血に対して女神散を内服薬に追加することにより、速やかな症状改善をみることができた。

一般口演

7.　DAPAカンファレンス症例から見る医鍼連携における課題の明確化 ～鍼灸師の視点から～

吉村 英[1)]・友岡 清秀[2)]・謝敷 裕美[3) 6) 7)]・増田 卓也[4) 5) 6) 7)]・竹下 有[6) 7)]

1）吉村はりきゅう治療院
2）順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座
3）順天堂大学大学院 医学研究科 公衆衛生学講座
4）三井記念病院 総合内科・膠原病リウマチ内科
5）東銀座タカハシクリニック
6）清明院
7）（一社）北辰会

【目的】

鍼灸師の医療連携に対する意識は年々高まっている。日本東方医学会では2017年より定期的にDAPA（医鍼薬地域連携研究会）にて鍼灸師、医師を中心に症例カンファレンスを行っており、医鍼連携の有用性や課題が報告されてきた。今回、アンケート調査により、医療連携が良好または不良であった要因を調査し、医鍼連携の課題を明らかにすることを目的とした。

【方法】

DAPAカンファレンスで症例報告をおこなった鍼灸師14名に“医療連携における課題”についてGoogleフォームを用いてWeb調査を実施した。鍼灸師の特性、直近一年の連携回数、連携先の内訳、連携良好・不良の要因を含む27問について調査した。

【結果】

本研究では9名（男性6名、女性3名）の鍼灸師から回答を得た。直近一年の連携回数は「5回未満」が最多、次いで「51回以上」、「11～20回」が同率であった。連携先は「医師」が最多、次いで「ケアマネージャー」、「老人ホーム等施設職員」が同率であった。連携が良好であった要因は「面識があった」、「情報共有が出来ていた」、「鍼灸治療について説明し、理解が得られた」が同率で多く、不良であった要因は「理解がなかった」、「必要性を感じてなかった」、「リスクへの意識が強かった」、「紹介状を渡してなかった」、「報告書に無反応」が同率で多かった。

【考察】

本調査から、連携が不良となる要因に「鍼灸治療への理解と関心の欠如」、「説明と情報共有の不足」が挙げられた。良好であった要因に「面識がある」、「十分な情報共有と説明」が挙げられた。医鍼連携において、鍼灸師は、十分な情報共有と説明を前提に顔の見える関係の構築を図り、治療内容への理解を得ることが重要であり、鍼灸治療に対する心理的障壁が高い場合は情報共有の継続に留めることも必要と考える。

キーワード：DAPAカンファレンス、医鍼連携、アンケート調査

一般口演

8.「気ってなんですか」～医学生が考える患者さんへの説明の模索～

濵口 哲[1)]・平山 大徳[1)]・廣田 華実[1)]・友岡 清秀[2)]・谷川 武[2)]

1）順天堂大学医学部　　2）順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座

【背景】

気は東洋医学的世界観の源であり、その理論の根幹をなす概念である。学生として東洋医学を学習する中で、基礎理論を学び、弁証論治の概念まで理解できるようになった。しかし、そのすべての基礎となる気について自分たちは本当に理解できているだろうか。例えば、もし将来我々が東洋医学を用いる医師となって、患者さんに「気ってなんですか」と聞かれたら、果たしてちゃんと答えられるだろうか。そもそも気の定義は多義的であり、しばしば抽象的でつかみにくいものとして認識されがちである。また、東洋医学を実践する医師・鍼灸師・武術家など気を取り扱う職業の方々の間でも、個人レベルで認識の差がある。どんな患者さんにもわかりやすい気の説明を提案したい。

【目的】

患者さんの「気ってなんですか」という問いに対する答えを考える。多様な背景を持つ患者さんにわかりやすいような説明を練る。

【方法】

本研究では、気の捉え方について文献検索を行う。東洋医学の古典や現代の専門書や論文から、鍼灸・漢方・気功・武道・宗教など、多様な実践領域における気に関する見解を収集する。各領域における、気の位置づけ・機能・前提に着目し、整理・比較することで、「患者さんのための気の説明」について考察する。

キーワード：気、漢方、鍼灸、医学生

一般口演

9.　氣圧トライアルが血圧と自律神経系機能に及ぼす影響
―健康成人を対象とした探索的研究

岩﨑 真実[1)]・野村 勇貴[1)]・牟田 美慧[1)]・友岡 清秀[2)]・谷川 武[1)]

1）順天堂大学大学院 医学研究科 公衆衛生学講座　　2）順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座

【目的】

近年、高血圧の有病率は依然として高く、更なる対策が求められている。心身統一合氣道で行われている氣圧は、施術者が身体に触れて適度な圧を加える手技であり、姿勢の確認、呼吸法、瞑想法等と併用される。これらには自律神経を介した降圧作用が示唆されているが、氣圧を含むアプローチが血圧や自律神経に与える影響は明らかでない。本研究では氣圧の要素を取り入れた介入プログラムである氣圧トライアルを実施し、単純前後比較試験により血圧や自律神経機能に及ぼす影響を探索的に検討した

【方法】

19～78歳の健康成人70名に、氣圧トライアルを週3回、4週間実施した。血圧および心拍変動は介入前、2週後、4週後に測定した。心拍変動は、LF/HF比を交感神経、HFを副交感神経の指標とし、対数変換した値を用いた。介入による血圧および心拍変動の変化を反復測定分散分析またはフリードマン検定により検討し、血圧と心拍変動の変化量の関連はスピアマンの順位相関分析で解析した。

【結果】

介入前、2週後、4週後の収縮期血圧の平均値は113.9 mmHg、112.8 mmHg、111.3 mmHg（p=0.07）、拡張期血圧は72.4 mmHg、73.7 mmHg、73.3 mmHg（p=0.18）、同様に、lnLF/lnHFの中央値は1.05、1.01、1.11（p=0.30）、lnHFは4.89 ms2、4.65 ms2、4.61 ms2（p=0.64）だった。収縮期血圧の変化量とLF/HFまたはHFの変化量に有意な相関は認められなかった。

【結論】

氣圧トライアルにより収縮期血圧が低下する傾向が示された。一方、収縮期血圧と心拍変動に有意な相関を認めなかったことから、氣圧トライアルによる降圧効果には自律神経以外の機序が関与している可能性が考えられた。今後、無作為化比較試験によりその降圧効果や作用機序の解明が求められる。

キーワード：氣圧トライアル、血圧、自律神経、心拍変動、探索的研究

一般口演

10.　伊達政宗の16人の医師へあてた直筆書状71通からわかること

尾﨑 和成[1)]・蔭山 充[2) 3) 4) 5)]・臼井 義貴[1)]・伊東 範尚[1)]・中村 好男[1)]

1）市立伊丹病院 老年内科
2）かげやま医院
3）大阪市立大学大学院医学研究科 女性生涯医学
4）京都大学大学院医学研究科 器官外科学(婦人科学・産科学)
5）弘前大学大学院医学部

【背景】
伊達政宗(以下政宗)は戦国武将・初代仙台藩主で千通以上の直筆書状を残している。今回、当時の医師宛書状から政宗の伝統医学の理解度や当時の医療水準を推測した。
【方法】
『仙台市史』第10-13号に約四千の展示品・書状が掲載され、このうち当時の医師宛の文禄四年(1595年)以降の政宗直筆書状を元に、国内の文献に加え、インターネットによる検索、外務省のホームページなども利用した。
【結果】
1992年に藩医宛書状28通の報告があるが人文・社会科学的考察のみで医学的考察に欠ける。我々は上記28通を含む医師宛の71通を伝統医学的見地から検討した。宛先は高屋快庵と松庵、半井成近と成信、曾谷宗祐、竹田定宣、野間成岑、曲直瀬玄朔と正琳、今大路親昌、藤林綱久、細川全隆、内田玄勝、岡本玄冶、片山宗哲、施薬院全宗の16人である。71通中47通(51症例)が医学関連で政宗はうち20症例は自身を診察していた。今回は2通(3症例)の詳細を示す。症例1は政宗が自身を診断した症例で、症例2は政宗自ら侍女を診察している。症例3は別の侍女を政宗が診察し、侍医に紹介する前にそかうゑん(蘇香圓)を処方している。
【考察】
症例2で従来は「少し動かすと、肺に少し手にあたる脈」の解釈だが、当て字の「敷(しき)」でなく「數(数の旧字)」にとると、「少し頻脈で右寸脈が有力で肺熱の脈」と解釈でき、医学的知識のある者(政宗)が診察していることがわかる。症例3の蘇香圓(蘇合香丸)は、中国国家衛生健康委員会の新型コロナウイルス感染症ガイドライン(Trial 8th Ver。)では意識障害に適応があるが、本症例では適応疾患は異なるが、政宗は蘇香圓を即時使用が可能な状態にしていたと推測された。
【結論】
複数の書状および同時代の文献から、政宗は軍事政治的な名君主のみならず後世派の医学的知識に富んだ武将だったと推測できた。

キーワード：伊達政宗(DATE Masamune)、 漢方(Kampo)、 書状・手紙(Letter(s))、
脈診(Pulse-taking)、蘇香円(蘇合香丸)(Sokoen or Storax Pill)

一般口演（ポスター発表）

11.　東方医学的診療の経験について

髙橋 博樹

東銀座タカハシクリニック

【目的】

最近生活習慣病などの慢性的疾患の基盤病態として老化と慢性炎症があると考えられていて、炎症老化（Inflammaging）という概念が受け入れられている。その背景に伝統医学である中医学的な陰陽五行のバランスの崩れなどや、邪気などの環境因子の影響がある可能性も示唆されるように思われる。しかしながら、そのメカニズムを理解するには病気の原因とそれによる生理機能障害を西洋医学的にもみる必要があるように思われる。慢性疾患患者の中には治療効果が出にくい症例もあるが、標準的な西洋医学と伝統医学を併用して中医学的弁証論治やさらに必要に応じてそれ以外の補助的な診療方法も組み合わせて併用する方法は効果的な場合があり、このような方法は東方医学的な診療方法ともいえると思われる。このような対処方法を使って実際に経験した慢性疾患の治療経験を元にして、東方医学的診療の有効性について検討してみたい。

【方法】

西洋医学と、中医学や漢方薬、それ以外の診療手段として温熱療法などを組み合わせる方法の有効性が示唆される場合があるため、慢性疾患の症例に対してそのような方法を複合的に併用して診療を行って経過を観察した。

【結果】

慢性疾患を年単位で経過を観察した結果、症状や検査所見的には進行が少ない傾向が認められる症例があった。また、補助的な診療や検査でも改善が認められた症例があった。

【結語】

慢性疾患に対して、標準的な西洋医学的な診療以外に、中医学などの伝統医学的な診療やそれ以外の補助的な診療方法を組み合わせるような複合的な対処方法である東方医学的な診療手法が有効である可能性が示唆された。また、慢性疾患の病態の背景に伝統医学的な病態や、環境因子などによる影響などがある可能性が示唆された。

一般口演（ポスター発表）

12.　臨床現場からのAI活用と意味設計――素人が三ヶ月で国際誌掲載へ

白石 健二郎

田無北口鍼灸院

【目的】
生成AIの進化は、開業鍼灸院から国際ジャーナルへの知見発信をも現実的なものにしつつある。本発表では、筆者がAIを活用してレターを投稿・採用された実例を紹介し、臨床知とAI出力の接続方法を検討する。あわせて、プロンプトを「意味の設計行為」として再定義する視点を提示する。

【方法】
GPT-4を活用し、意味・文脈・価値観を整理するSML-CMLモデルをプロンプトに埋め込むことで、診断や倫理的論考を構造化。プロンプトを単なる入力変数手段ではなく、判断に必要な世界観を構成する設計と捉えた。

【結果】
プロンプトに明示的な意味構造を与えることで、従来は語感や経験に依存していたAI出力が、臨床現場の知を反映した論考として昇華された。作成したレターはBMJ本体（DOI: 10.1136/bmj.q1129）、等に掲載された。他にも評価モデルの考案、論文作成サポート、AI開示ポリシーの実装や患者向け資料作成にも応用が進んでいる。

【結語】
プロンプトは出力を操作するための単なる変数ではない。「哲学的構造を埋め込んだプロンプト」は、AI出力の意味密度と実用精度を飛躍的に高める。意味モデルに基づくプロンプト設計は、個人開業鍼灸師レベルからでも国際的な知の発信を可能にする実践である。

キーワード：生成AI、哲学、プロンプト、SML-CML、国際ジャーナル

一般口演（ポスター発表）

13.　運動器エコーおよびエコーガイド刺鍼の授業への導入

光野 諒亮・鈴木 聡・松岡 慶弥・浦田 繁

鈴鹿医療科学大学　保健衛生学部　鍼灸サイエンス学科

【目的】

本学では鍼灸教育における解剖学的知識の理解を深め、臨床技術の習得支援を目的に、2019年度より超音波診断装置（以下、エコー装置）を教育に導入してきた。本報告では2025年度に実施したエコー装置を用いた授業内容の紹介と、その理解度および教育効果に関するアンケート調査結果を報告する。

【方法】

鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸サイエンス学科4年次前期科目「鍼灸臨床技術学Ⅱ」（全15回）において、4回分（各90分）をエコー装置を用いた授業に充てた。対象は4年生36名で、学生を約6名ずつ6班に分け、各班に1台のエコー装置を配置した。教員は4名体制で、うち熟練教員2名が2班ずつ、その他の教員が各1班を担当した。第2回から第4回の授業終了時に、それぞれアンケートを実施した。

【結果】

授業内容は第1回「エコー装置の原理と基本操作」、第2回「エコー装置を用いた肩部、大腿部の観察」、第3回「大腿部へのエコーガイド刺鍼」、第4回「下腿部へのエコーガイド刺鍼」を実施した。アンケートの回収人数は、第2回32名（88.9%）、第3回33名（91.7%）、第4回26名（72.2%）であった。エコー装置を用いた骨格筋や骨を確認できたかの設問では、烏口突起・烏口腕筋・結節間溝では100%、大腿直筋・中間広筋・大腿骨では96.9%、腓腹筋・ヒラメ筋・腓腹筋間では100%の学生が「確認できた」と回答した。自由記述の設問では「エコーガイド刺鍼は初めてで興味深かった」「説明がわかりやすかった」などの肯定的な意見のほか、「全体の時間が足りない」「使う機器によって性能差が大きい」などの否定的な意見もみられた。

【考察・結語】

エコー装置を用いた授業は、学生の視覚的理解を促し、解剖学的知識の深化および臨床技術の向上に寄与する可能性が示唆された。また、学生の関心を高める有効な教育ツールとしても機能し得る。

キーワード：運動器エコー、実習、鍼灸、エコーガイド、授業評価

一般口演（ポスター発表）

14.　学生のための順天堂大学東洋医学研究会の現在の活動と今後 ～深く学びながら広く学習の輪を広げるには～

石井 菜々子[1)]・田中 優希[1)]・志方 直人[1)]・友岡 清秀[2)]・谷川 武[2)]

1）順天堂大学医学部医学科　　2）順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座

「学生のための順天堂大学東洋医学研究会」は、東洋医学に関心を持つ医学生によって「最善の医療を提供する為には医療の洋の東西を問わない」をモットーに、東洋医学の学習の場として2018年に設立された部活動である。本研究会は医学生だけではなく本大学の医療系学生も積極的に受け入れており、現在は7学部、109名が所属している。

本研究会では、外部講師の方を招いた漢方と鍼灸に関する勉強会を毎月開催している他、週に1度、放課後に学生たちが集まり、東洋医学(特に中医学)の基礎理論に関する学習や模擬症例検討会などを行うセミナーを開催している。また、年に1回ゲストの先生をお招きして一般公開のシンポジウムを開催している。

さらに、学会活動にも積極的に参加しており、これまでに日本東方医学会、日本東洋医学会学術総会や日本アーユルヴェーダ学会研究総会での学会発表も行っている。

最近ではこれらの学習活動に加えて、野外での薬草ワークショップや文化祭出店などのカジュアルな活動を増やしている。部活動としての側面を生かして、学生が東洋医学に興味を持ち学び始めやすくなるよう、学習へつなげるための敷居を下げる取り組みを行っている。

一般口演（ポスター発表）

15.　氣圧トライアルが肩こりに及ぼす影響
―健康成人を対象とした探索的研究

野村 勇貴[1)]・牟田 美慧[1)]・岩﨑 真実[1)]・友岡 清秀[2)]・谷川 武[1)]

1）順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座　　2）順天堂大学医学部 衛生学・公衆衛生学講座

【目的（背景）】
肩こりは、後頭部から肩甲骨周辺にかけての筋緊張による不快感や鈍痛等の症状であり、不安等の心理社会的要因の関与が知られている。日本での有訴者率は高く、健康関連QOLや労働生産性の低下をもたらすため、公衆衛生上重要な課題である。心身統一合氣道会で実践されている氣圧は、訓練を受けた施術者が身体に触れて適度な圧を加える手技である。氣圧に類似する指圧による肩こりへの有効性が示唆されているが、氣圧が肩こりに及ぼす影響は明らかにされていない。本研究では、氣圧の要素を取り入れた介入プログラムである氣圧トライアルを実施し、単群前後比較試験により肩こりや不安に及ぼす影響を探索的に検討した。
【方法】
18歳以上80歳未満の健康な成人71名を対象とし、8分/回の氣圧トライアルを週3回、4週間実施した。肩こりの評価として、Visual Analogue Scale（VAS）と僧帽筋上部の筋硬度を測定した。不安は、状態不安を評価した。測定は介入前、2週後、4週後に実施した。氣圧トライアルがVAS値、筋硬度および状態不安に与える影響をフリードマン検定または反復測定分散分析により検討した。VAS値と状態不安の変化量の関連について、スピアマンの順位相関分析を用いて検討した。
【結果】
介入前、2週後、4週後のVASの中央値は49 mm、33 mm、31 mm だった（$p<0.01$）。同様に、筋硬度の平均値は0.929 N、0.935 N、0.907 Nだった（$p=0.048$）。状態不安の中央値は38点、37点、34点だった（$p<0.01$）。VAS値と状態不安の変化量の間に有意な正の相関を認めた（$\rho=0.326$、$p<0.01$）。
【結論】
氣圧トライアルが、不安の軽減を介して肩こりを改善する可能性が示された。今後、無作為化比較試験による、その肩こりへの影響や作用機序の解明が求められる。

キーワード：肩こり、不安、氣圧トライアル、探索的研究

学生セッション

「東方医学をバズらせろ！」

学校名	代表者	発表タイトル
順天堂大学	石井菜々子	オタク的東洋医学エッセンス
埼玉医科大学	清水麗	日常の「なんとなく不調」に強い東方医学
日本医科大学	細山陽名	ツボ？ヨガ？整体？アジアの癒し “タイマッサージ”の真相
聖マリアンナ医科大学	加藤鷹経	漢方を BuZZ らせよう ～ときには人を頼ってもいいじゃないか編～
横浜市立大学	池田千鶴	横浜市大東医研の東洋医学バズらせチャレンジ！ －興味のツボに刺さるアプローチとは－
福井大学	溜池菜々花	エンジョイ勢もガチ勢も Buzz らせろ！
東北大学 feat. 仙台赤門短期大学	赤羽輝彦	漢方医学をもっとカジュアルに！ ～東北大東医研の活動と展望～

アクセス

会場：順天堂大学本郷・お茶の水キャンパス7号館

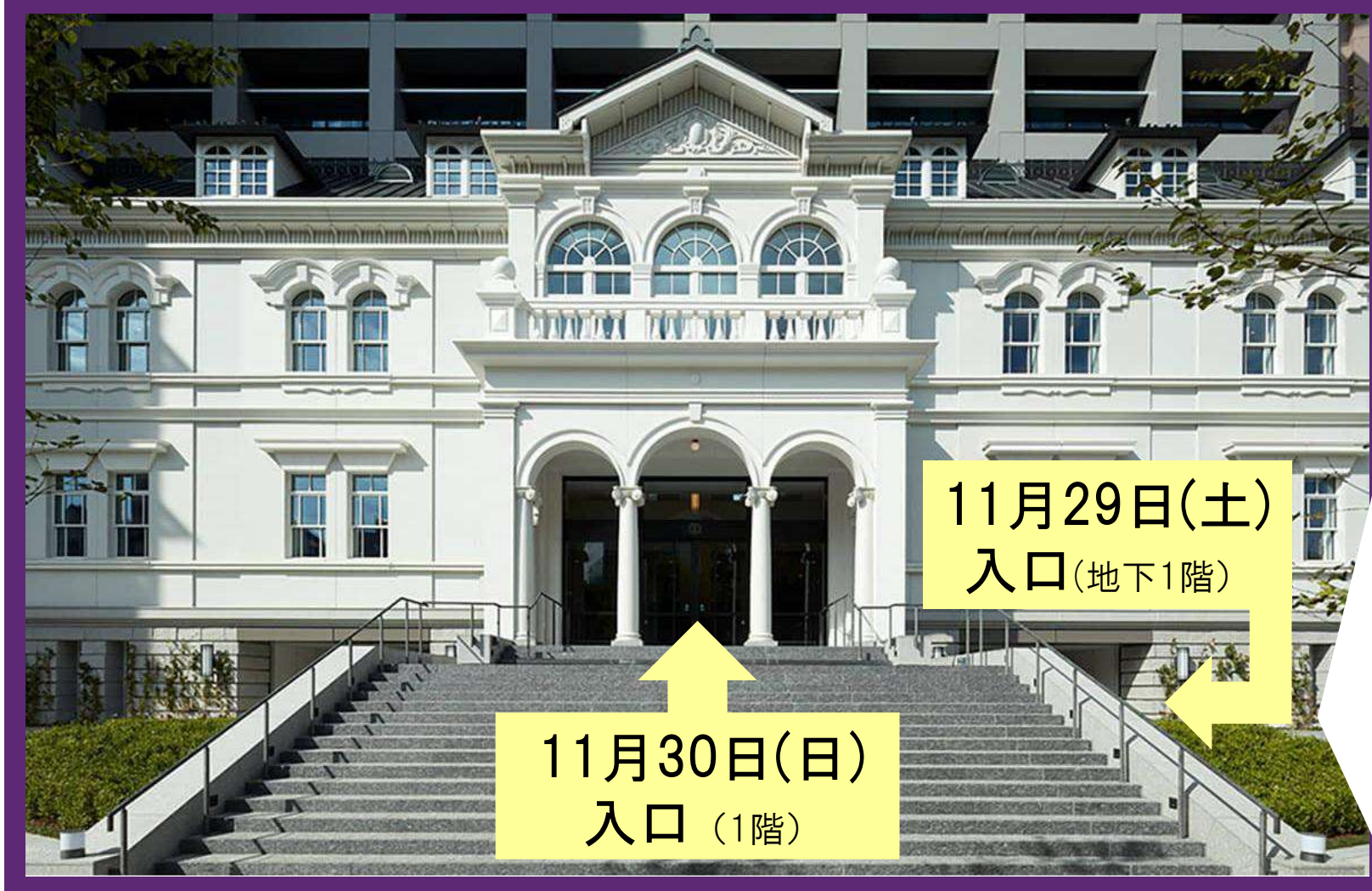
順天堂大学

所在地　東京都文京区本郷 2丁目1番1号
電　話　03−3813−3111(大代表)
ＵＲＬ　http://www.juntendo.ac.jp

<最寄駅からのアクセス>

- ＪＲ線「御茶ノ水」駅下車(御茶ノ水口) …… 徒歩７分
- 東京メトロ(丸ノ内線)「御茶ノ水」駅下車 …… 徒歩７分
- 東京メトロ(千代田線)「新御茶ノ水」駅下車(Ｂ１出口) …… 徒歩９分
- ＪＲ線「水道橋」駅下車(東口) …… 徒歩８分
- 都営地下鉄(三田線)「水道橋」駅下車(Ａ１出口) …… 徒歩８分

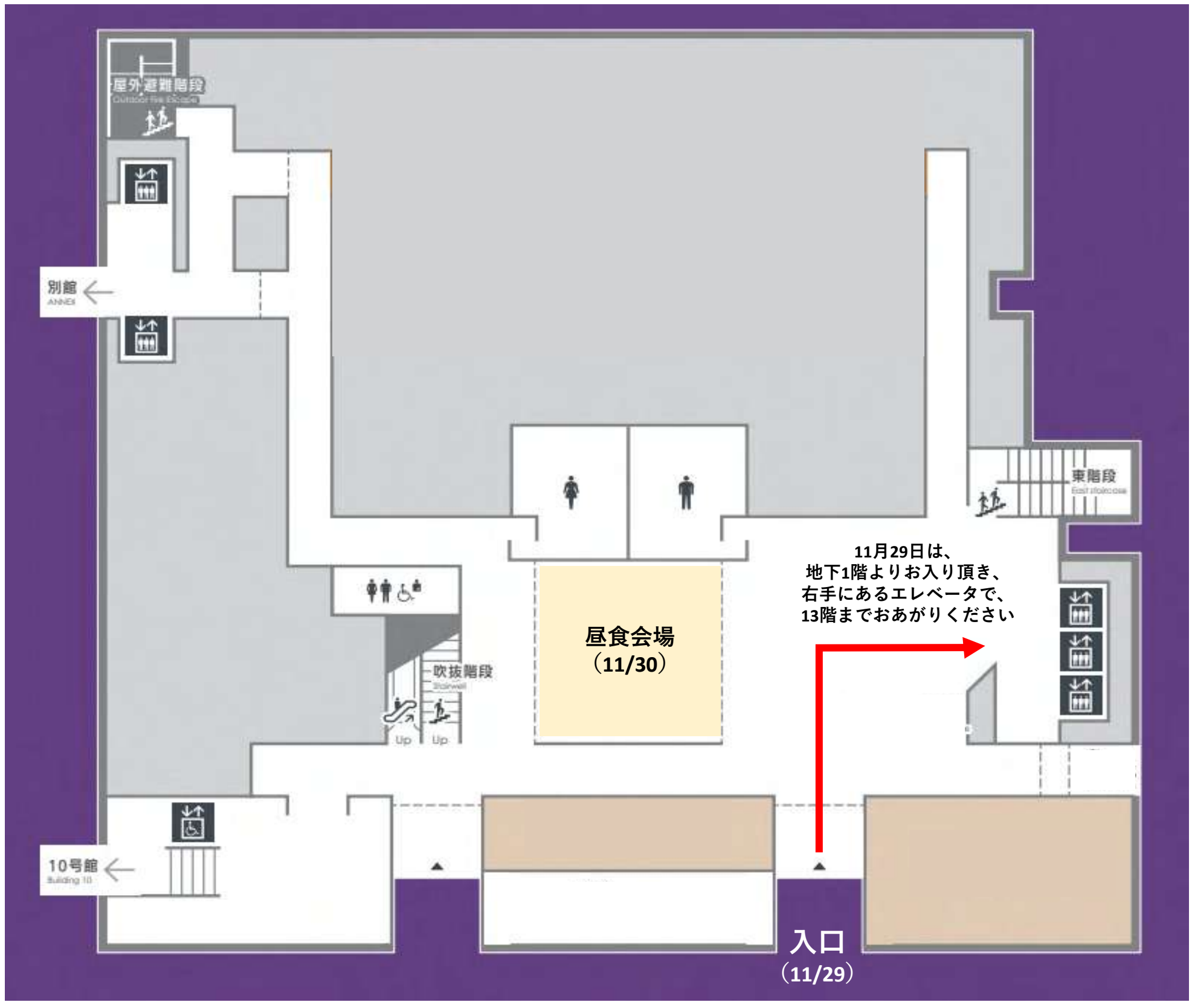
※学会は両日とも同じ建物ですが、
1日目と2日目で、入口が異なりますので、ご注意ください。



【 11月29日(土) 】
正面階段は上らず、
御茶ノ水駅側入口から、
地下1階へお入りください。

【11月30日(日) 】
建物正面の階段を上り、
1階へお入りください。

▶地下1階


屋外避難階段
Outdoor fire escape
別館
ANNEX
東階段
East staircase
11月29日は、
地下1階よりお入り頂き、
右手にあるエレベータで、
13階までおあがりください
昼食会場
（11/30）
吹抜階段
Stairwell
Up
Up
10号館
Building 10
入口
（11/29）

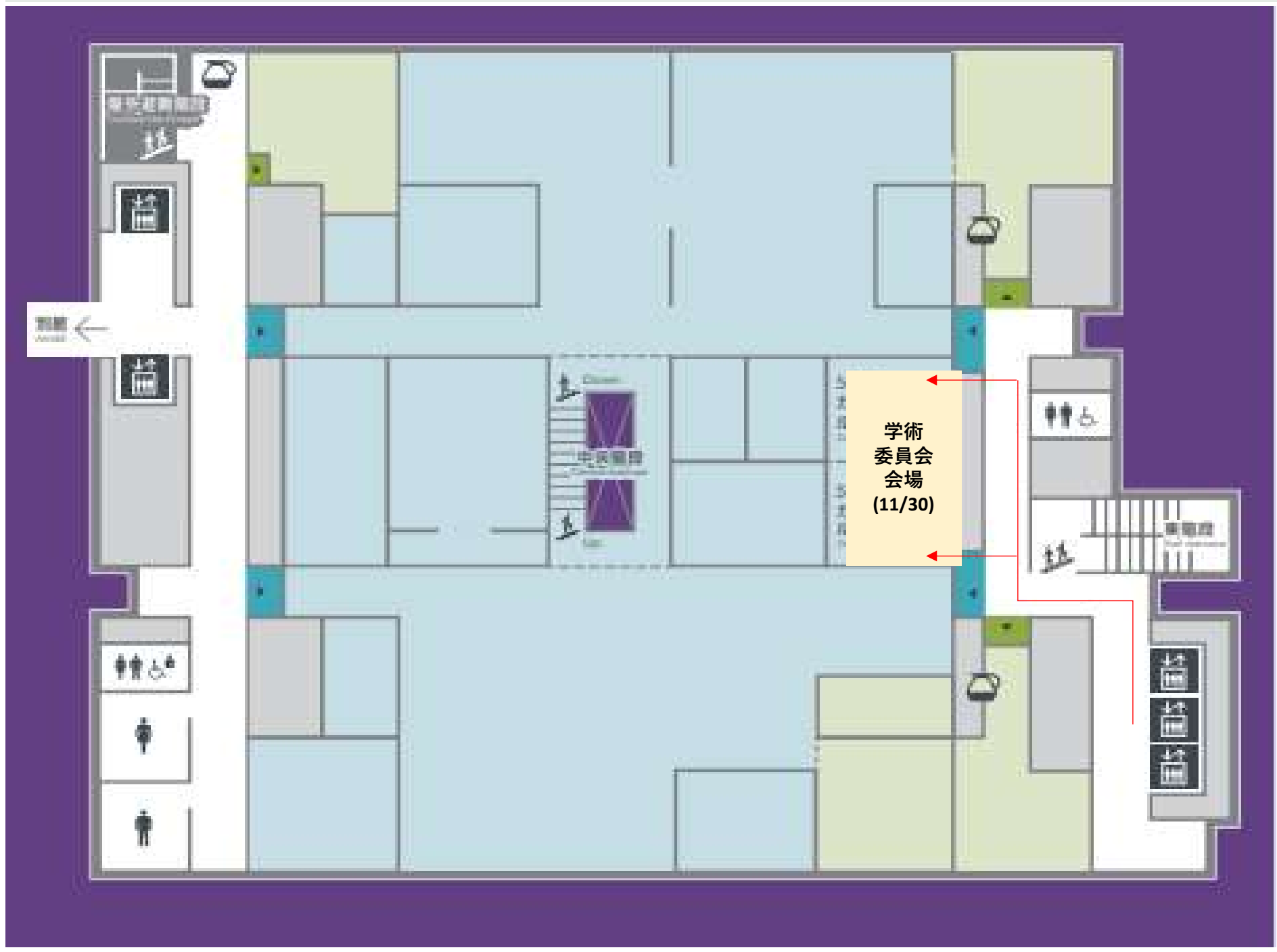
▶１階

北エントランス
North Entrance
別館 | 駐車場
ANNEX | Parking Lot
小川秀興講堂
（11/30会場）
受付
Down
吹抜階段
Stairwell
東階段
East staircase
ポスター
発表
（11/30）
吹抜階段
Stairwell
Up
昼食会場
（11/30）
入口
（11/30）
企業展示
（11/30）

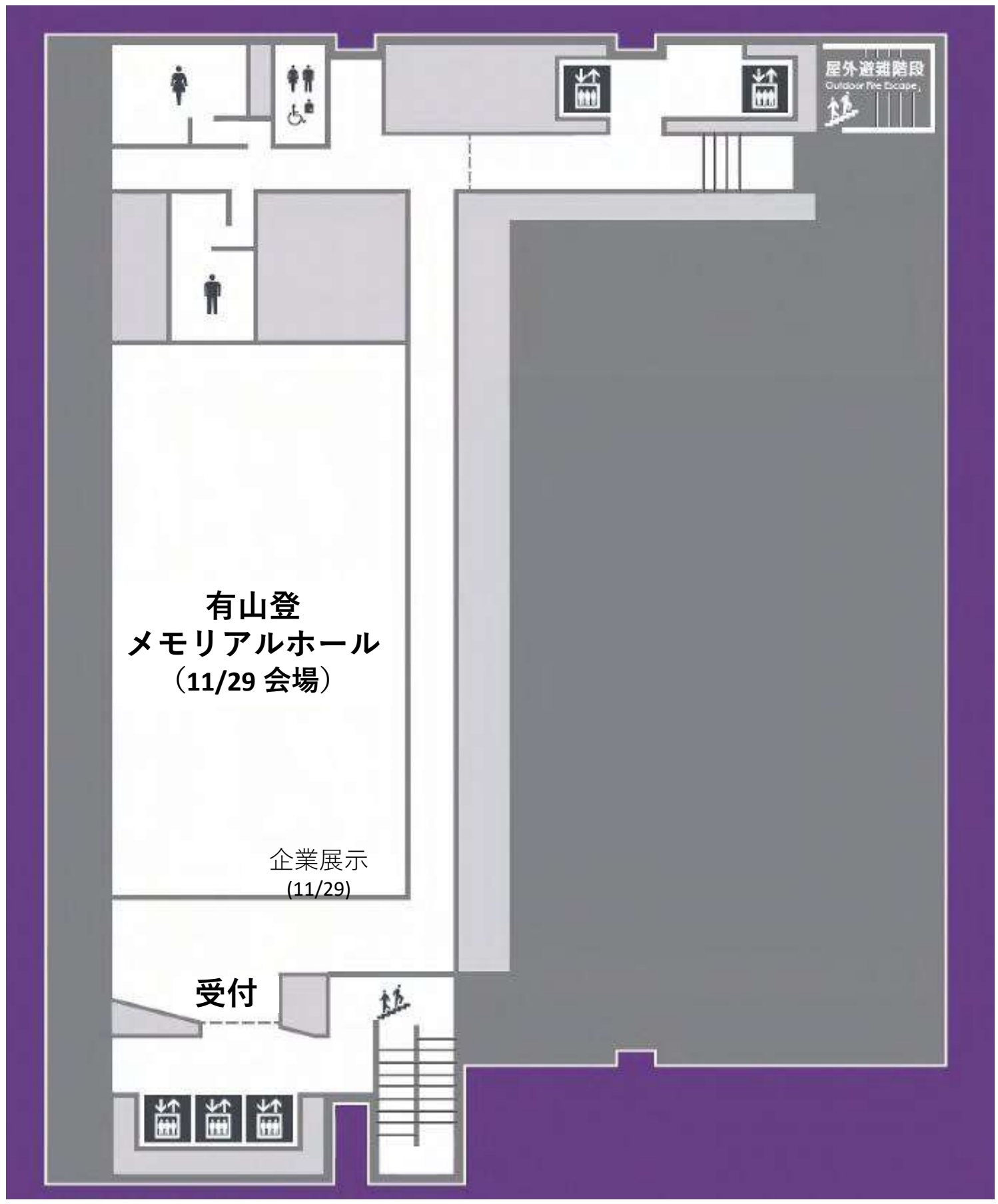
▶２階

屋外避難階段
別館
ANNEX
東階段
East staircase
入口
Down
Up
吹抜階段
B棟(2F)
食堂
（11/30 昼食会場・懇親会）
食堂
（11/30 昼食会場・懇親会）
203B

▶7階


学術
委員会
会場
(11/30)

▶13階


屋外避難階段
Outdoor Fire Escape
有山登
メモリアルホール
（11/29 会場）
企業展示
(11/29)
受付